

令和6年度（2024年度）第2回越谷市科学技術体験センター運営委員会

- 日 時 令和6年11月7日（木） 10時00分～11時30分
- 場 所 越谷市科学技術体験センター 2階レクチャー室
- 出席者 （委員9名）手嶋委員長、小松副委員長、林委員、金子委員、小崎委員
木野内委員、野口委員、安川委員、柳委員

（事務局7名）小泉教育総務部長

川澄教育総務部副参事兼生涯学習課長

小抜生涯学習課調整幹兼科学技術体験センター所長

北郷生涯学習課副課長、荒井主幹、舛田主任指導主事、平澤主事

- 欠席者 （委員2名）荒川委員、佐藤委員

■会議次第

1 開 会

2 あいさつ

3 報告事項

令和6年度（2024年度）事業報告（4月～9月）について

4 協議事項

令和7年度（2025年度）事業計画について

5 その他

6 閉 会

- 内 容 下記のとおり

会 議 内 容

令和6年度（2024年度）第2回運営委員会会議録（令和6年11月7日開催）

1 開会 北郷生涯学習課副課長（司会）

2 あいさつ 手嶋委員長

3 報告事項

令和6年度（2024年度）事業報告（4月～9月）について

議 長 令和6年度（2024年度）事業報告（4月～9月）についての説明を求める。

事務局 令和6年度（2024年度）事業報告（4月～9月）の資料に基づいて説明を行う。
資料の修正箇所あり。資料12ページ、特別な支援を要する児童生徒を対象とした
科学工作体験事業に「6月25日実施、放課後等デイサービス あさがお」と記載

されているが、正しくは「越谷市立東越谷小学校特別支援学級」となる。

議 長 委員に諮る。

委 員 資料17ページの「4.貸部屋」にて、土曜日に「越谷市放課後子ども教室推進事業 ミラクルアドベンチャー」という子供向けの事業を実施しているようだが、内容について教えていただきたい。

事務局 青少年課が実施している事業の一つとなる。一年間を通してレクチャー室を貸出しており、月に2回の実施となっている。内容としては、昔ながらの紙芝居や公衆電話のかけ方の講座等を実施している。

委 員 こちらの事業は土曜日の学校登校日に行われているものなのか。

事務局 休日に実施している。日程については主催の団体で決めている。

委 員 ミラクル自然観察教室について、自然に興味があるため、どのような内容の講座だったのかを教えていただきたい。

事務局 ミラクル自然観察教室は埼玉県生態系保護協会越谷支部の方々を外部講師としてお招きし、越谷市に生息する生物の紹介や、ミラクルの正面にある七左第四公園にて虫取りを行い、捕まえた虫を観察する講座を開催した。また、昨今問題になっている外来種の啓発活動についても講義があった。

4 協議事項

令和7年度（2025年度）事業計画について

議 長 令和7年度（2025年度）事業計画についての説明を求める。

事務局 令和7年度（2025年度）事業計画の資料に基づいて説明を行う。

議 長 委員に諮る。

委 員 最近のサイエンスボランティアやミラクル友の会の動きについて伺いたい。

事務局 サイエンスボランティアについては、今年度新規で2名の登録があり、計15名の方に登録いただいている状況である。今年度はサイエンスボランティアの活動についてアナウンスが少ないこともあり、今後はサイエンスボランティアによる講座等の活動を増やしていければと考えている。

ミラクルの友の会については、現在も会員募集を継続して行っている。ミラクル友の会の今年度の新規登録者数は100名を超えている。また、活動としては「ミラクル友の会限定企画」として10月5日（土）に和光市にある理化学研究所の見学会を実施した。

委員 生涯学習事業の中で委託している講座と外部講師による講座の違いにはどのような違いがあるか伺いたい。

事務局 委託している講座については、公益財団法人越谷市施設管理公社に委託して実施している講座。外部講師による講座については、企業や大学等に依頼して実施している講座となる。

委員 特別な支援を要する児童生徒を対象とした科学工作体験事業について、資料を見ると2団体が参加していたようだが、この事業はミラクルの職員が出張しているのか、ミラクルに来てもらっているのか、また、応募に際して選考等があるのか伺いたい。

事務局 特別な支援を要する児童生徒を対象とした科学工作体験は当センターに来てもらって工作を実施しているものになる。応募等についてはホームページにて周知しているが、ミラクルに連絡をしてもらい、日程調整を行っている。実施日は、水曜日と金曜日は学校利用があることから、火曜日と木曜日となる。

委員 企画展示の予定について、ミラクルの一年間展、AIに関する企画展に関するイメージを教えてください。

事務局 ミラクルの一年間展については、新規の来館者が多く、どのような体験ができるかの問い合わせが多かった。そのため、こういったものが学べる、こういったものが作れるなど、ミラクルでは何ができるかを紹介する展示となる。AIに関する企画展については、AIはどのようなものなのか、AIの使い方についての展示を予定している。講師や具体的な内容については検討中である。

委員 AIについては賛否両論あるため、企画展でAIの全てが正しいものではないということが伝えられれば良いと考えている。次回の企画展に期待している。

委員 生成AIについては、大学でも問題となっていて、講義のレポートを生成AIで作成する生徒も散見された。リテラシーの問題、特に文章を書く訓練というのが、なかなか難しく、すべてをデジタル化していいものではない。生成AIはある程度予測変換で字や言い回しを作成できてしまうため、自分の手で書かないと字や漢字を覚え、表現もできなくなり誤字も多くなる。この傾向は昔からあったが、コロナが流行して以降、DXが発展して顕著に増えている。これらが出来ていないまま大人になる人が増えている。仮に教員になった時にどうなるのか、ミラクルで取り扱う

AI の内容についてはまた考えなければならないが、方針としては、AI のメリット、デメリットを伝え、「生涯学習生活において支障がでてはいけない」というようなコンセプトを決め、ある程度形作っておいても良いと思われる。

委員 科学技術体験センターという場所は「科学」を題材に取り扱っているが、プログラミング講座など「工学」に分類する講座も実施している。科学技術体験センターにおいて企画展や講座等を企画する上で「科学」と「工学」との境があれば教えていただきたい。

事務局 来年度、検討している企画の中で、中級者向けのプログラミングとしてロボットを動かすプログラミング講座がある。科学技術体験センターでは「科学」に分類しないから取り扱わないわけではなく、来館される方に興味関心を広げて体験していただきたいと思っている。今後の講座についても、様々な分野のものを検討している。

委員 昔、科学と技術は分けて考えたほうがいいのか、とある学会で話題になったことがある。「科学技術」となるとどうしても技術の方が先行してしまい、科学がおざなりになり、基礎科学的なところで危機感を覚えたと聞いたことがある。科学技術体験センターでは、区別なく科学と技術を並行して取り組んでいるということで非常に良いと思う。

委員 最近、大学の方でも、文部科学省から、数理、データサイエンス、AI、に関する科目を大学でも取り入れるように言われている。多くの方が、「数理」の意味や、「データサイエンス」というものがどこまでのことか、「AI」とは何が違うのか、大学でも実際に科目を取り入れている。しかし、コンセプトを理解できていない生徒も多く、世間の認知としても深く理解できていないものとなっている。その中で「AI」についてしっかりと説明できるように、企画展や講座ができると良いと思う。

事務局 「数理」については、文部科学省から配布されている一家に一枚ポスターの20周年のテーマとしても取り扱われており、また、理化学研究所に見学に行った際にも、「生活の中で活かされる数理」というブースがあったことから、非常に注目されているジャンルであることを実感した。今後とも理解を深めていきたいと思う。

議長 次回の科学技術体験センター運営委員会の開催予定は、令和7年6月頃を予定している。開催通知については、会議の開催の1ヶ月前を目途に郵送にて案内するので、よろしく願いしたい。

手嶋委員長が議長の職を降り、司会が進行役となる。

5 その他 委員よりイベントの案内

6 閉会 小松副委員長の挨拶にて閉会。